

新病院長に聴く

第15回 (医) 社団宇部興産中央病院 院長 西崎 隆文 先生



病院の紹介

当院は1953年に、当時流行していた結核の療養治療のための「宇部興産サナトリウム」としてスタートし、今年4月で病院開設70周年を迎えました。当初は宇部市中心地に病院建設が進められていましたが、治療法がなく療養が主体だった結核患者のため、気候が温暖で日当たりが良く、空気がきれいで周防灘を望む場所だった西岐波の高台に最終的に立地が決まりました。結核療養病棟のほか内科、外科、耳鼻科、歯科の診療を開始し、1959年に西日本で初めての標榜科となる脳神経外科を開設。1966年に「宇部興産中央病院」に改称し、1981年に総合病院として承認されました。その後、消化器センター、脳疾患治療センター、救急センター、ハイケアユニット、療養病棟、健診センターを開設し、2014年に医療法人化（医療法人社団）し、2015年に地域支援病院になりました。2017年に新病棟をオープンし、救急センター、手術室、外科などの病棟を移転しました。当院は高齢化社会で増えるがん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病などを中心とした専門性の高い治療と、市の救急搬送の半数以上を受け入れる救急医療体制を整え、地域医療に不可欠な中核病院として発展してきました。今年5月に2機種あるMRIの1台を更新し、全身がん、乳がん検診を新たに開始しました。山口県で最初の学童保育施設、徹底した職員健診など福利厚生も充実しています。昨年は看護師3名が、厚生労働大臣表彰、県知事表彰、県病院協会賞を受賞。

さらに薬剤師が県公衆衛生協会賞を受賞し、職員育成を強化し、また、初期研修医が毎年、学会優秀演題賞を受賞するなど研修指定病院としての教育にも力を入れています。

病院長としての抱負

私は昨年4月に清水昭彦先生の後任として院長に就任しました。就任挨拶では、職員に二つの病院のミッションについてお願いしました。一つめは「専門治療と救急医療の両立」です。特殊専門治療の重要性は言うまでもありませんが、急性期救急医療は当院の存在意義にほかならないことを伝えました。二つめは「患者満足度向上（CS）と職員満足度向上（ES）」です。20余年前に当院に赴任した私はCS向上委員会の委員長を任されました。最初はCSの意味すら知らない有り様でしたが、多職種で挨拶・病院清掃・接遇などの運動などに取り組みました。病院はプロフェッショナルの集まりであり技術と知識は重要ですが、患者の信頼を得るためにはおもてなしの気持ちが必要で、また職員間ではお互いをねぎらって気持ちよく仕事ができる環境を作ることが大切であることを私自身も含めた教戒としています。

病院長としては、体力の続く限りハンズオンを続け実務に関わり、私自身が現場を知ることが不可欠と思っています。また、一臨床医としては、脳外科医の経験を後輩に良きにつけ悪きにつけしっかり伝えるよう心がけています。

自己紹介

私は岩国に生まれ、宇部に移住してはや半世紀が過ぎました。小学生から大学生までサッカー部に所属し、高校の英語教師をしていた父親からは体育関係の仕事勧められるほど、水泳、野球など数多くの運動に没頭しました。山口大学医学部を卒業し、初代青木秀夫教授の主催する脳神経外科に入局しました。回顧しても決して確たる信念で選んだとは言えません。ただ、私の高校時代にくも膜下出血で亡くなった教職にいた曾祖母が生前、「文系が多いので一人くらい医者がいても良いかもね」と言ったのを覚えていて、また、私が脳神経外科に入局した4月に母親が脳梗塞に罹りましたので、少なからずながしかの因縁があったのかもしれませんが。大学病院では主に脳腫瘍の診療に携わり、2003年に当院に赴任しました。手術を多く経験させてもらいましたが、一般病院では専門領域に特化せず、幅広い脳疾患の知識を得なければならないと痛感し、脳卒中・脳卒中外科・頭痛・認知症・神経内視鏡・がん治療・神経生理の専門医・認定医資格を多く取得しました。ただ、今後はどの資格から捨てていくか思案しているところです。

若い医師へひとこと

含蓄のある話は到底できませんが、私が一外科医として今も強く印象に残り、胸に刻んでいる先達の言葉は3つ。「手術中に声を荒げるのは修行が足りない」、「頑張っていれば誰かが見てくれている」、「手術だけが脳外科ではない」、です。

趣味や余暇の過ごし方

ロードバイクが趣味で40代から片道9キロの自転車通勤を続け、走行距離は地球一周の距離(4万キロ)を超えました。ただ、還暦をすぎて周囲の忠告もあり昨年からは中断しています。身体を動かすのは好きですが、1万冊を超える書物を持っていた亡き父の影響か、歳をとるごとに読書量が増え、コロナ禍期間も退屈せずにすみました。2年前に還暦を機に同級生から誘われ、ゴルフを再開しました。1年前に空き家になった実家で、昔のNHK番組のビデオを見つけました。50歳で

ゴルフを始めた大叔父がエージシュート(年齢より下のスコアでラウンド)の日本最多記録を達成したというものでした。私の腕前は一切その血筋を感じられませんが、交友と情報交換の場と割り切って参加しています。

座右の銘

太宗の『貞観政要』(600年ごろ)に「銅の鏡」の一説があります。鏡を見て自分が良い表情をしているか確認しなさい、自身が明るく元気に仕事をすれば周りの人も楽しく仕事できて組織は機能する、というものです。なかなか難しいことですが、日常心がけていることです。

最後に

これからも当院が地域社会にとって欠かせない存在であり続けるため、職員一同努力してまいりますので、医師会の皆様のご指導とご支援を賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。

県下唯一の医書出版協会特約店

医学書専門 井上書店
看護学書

〒755-8566 宇部市南小串2丁目3-1(山口大学医学部横)
TEL 0836(34)3424 FAX 0836(34)3090
【ホームページアドレス】<http://www.mm-inoue.co.jp/mb>
新刊の試覧・山銀の自動振替をご利用下さい。